

愛媛大学大学院農学研究科附属食品健康科学研究センター

第15回 医農連携推進セミナー

日時：平成28年7月12日(火) 17:00～18:00

場所：農学部3階 多目的ホール

講師：三宅吉博 教授

愛媛大学大学院医学系研究科 疫学・予防医学講座

演題：栄養疫学はおもしろい！！日本人における
Evidence-based Nutritionの確立を目指して

<講演概要>

本邦における栄養疫学の元祖は高木兼寛であろう。脚気の原因として白米中心の食事に注目し、大麦、大豆、牛肉を多く摂取することで旧日本海軍の脚気問題は解決した。その後、ビタミンB1が発見された。疫学研究ではメカニズムはさておき、実利を追求する。

妊娠中から生まれた子と母親を追跡する出生前コーホート研究である大阪母子保健研究及び九州・沖縄母子保健研究のデータを用いて、妊娠中の栄養と母子のアレルギー発症や周産期うつとの関連について調べた。また、パーキンソン病の症例対照研究により、パーキンソン病リスクと関連する栄養要因について調べた。これらの結果を述べる。

たった一つの疫学研究の成果で結論を下すことはできない。確立したエビデンスとなるためには、できるだけ多くの疫学研究で支持されなければならない。

いろいろな健康問題に対する栄養の影響について、疫学研究によるエビデンスを蓄積しなければならない。